『あきのたからもの』　3歳児　　11月　　伏見こども園

『あきのたからもの』って、なぁに？

クラスで読んだ絵本の中に『あきのたからもの』という言葉と共に、色づいた木の葉や木の実などの写真が載っているページがありました。その日から、「あきのたからもの」がキーワードとなって、子ども達がいろいろな「秋」を見つけるようになってきました。

子どもの姿

「先生、『あきのたからもの』見つけにいこうよ」と、数日前から毎朝園庭に出ると保育者を誘いに来てくれるＡちゃんは、今日もお気に入りの箱を持っています。「行こう！どこにあるかな？」保育者は、衣装に木の葉などを貼って遊んでいるＢちゃんとＣちゃんにも声をかけて一緒に『あきのたからもの』を見つけに行くことにしました。何度も保育者と一緒に『あきのたからもの』を見つけに行っていたＡちゃんは「ここにあるお花はとっていいんだよ」「こっちにもあるよ」と知っていることをＢちゃんとＣちゃんに伝えています。「本当だ」「かわいいね」と三人で花を摘んだり、木の葉を拾ったりしていました。

保育者の思い

いつもＡちゃんは保育者と二人で見つけに行っているけどＢちゃんとＣちゃんを誘ってみよう。友達と一緒に『あきのたからもの』を見つけたり、遊んだりして楽しさを味わってほしい。

三人で声を掛け合いながら花を摘んでいる様子を見守り、保育者も会話の中に入ったり、探したりして友達との関わりを広げていってほしい。

子どもの育ちや学び

Ａちゃんは保育者だけでなく、Ｂちゃんや Ｃちゃんを誘い、友達と一緒に『あきのたからもの』という共通の思い（キーワード）をもって集めることを楽しんでいました。

知っていることを伝えたり、教えてもらったことを喜んだりしながら、見つけたものを見て、友達とのやりとりを楽しみ、関わりを広げて行くことができました。

家庭だったら

「イチョウが黄色に色づいたね」「ドングリってツルツルしてるよ」「風の音が聞こえるね」「お芋が焼ける匂いってお腹が空いてくるね」など、生活の中に溢れる季節を五感で味わってみてください。子ども達の心には、お家の方の声は、子ども達の心に季節の印象として残っていきます。ぜひ、一緒に楽しんでください。